

## 第2次八代市総合計画第1期基本計画

(平成30年度～令和3年度)

# 重点戦略に係る取組内容等総括表

重点戦略4 安全・安心で魅力ある都市を築く	
取組①	大規模災害時における防災体制の充実
取組②	市内全域の超高速ブロードバンド化による地域情報格差の解消
取組③	災害対策活動拠点やまちづくりの核となる新庁舎の早期建設
取組④	路線バス・乗合タクシーの運賃や路線を見直し、より利用しやすい公共交通体系を構築
取組⑤	幹線道路ネットワークの形成に向けた整備促進

第2次八代市総合計画第1期基本計画（平成30年度～令和3年度）

重点戦略に係る取組内容等総括表

重点戦略	4 安全・安心で魅力ある都市を築く
重点戦略	① 大規模災害時における防災体制の充実
重点戦略	平成28年熊本地震をはじめとする各種災害を教訓とし、自主防災組織の育成と備蓄体制の拡充に取り組み、大規模災害時における防災体制のさらなる充実を目指します。

担当部	重点取組の4年間の総括及び今後の展望
総務企画部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主防災組織については、結成や活動の補助を行うなど、組織の結成に向けた働きかけを行い、4年間で5組織増の221組織となり、結成率は88%と目標値（95%）の9割を達成することができた。</li> <li>・備蓄体制については、備蓄計画等に基づき備蓄倉庫を2棟整備し、食料を約73,000食配備している。また、令和2年7月豪雨災害においては備蓄食料等を適切・迅速に配布することができた。</li> <li>・防災体制については、令和元年度から令和3年度までを工期として「防災行政情報通信システム」を整備し、訓練等を実施した。また、消防団等の資機材を計画的に更新するなど、大規模災害を想定した体制整備を行った。</li> <li>・引き続き、逃げ遅れゼロの実現に向けた、防災情報の伝達の徹底や、自主防災組織との連携強化による地域防災力の向上を目的とした事業を展開する。また、避難所機能の強化に向けた設備等の導入を計画的に実施していく。</li> </ul>
市民環境部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティセンターについては、大半の施設が避難所に指定されていることから、安全性・利便性の向上を図るとともに、防災機能の強化を含めて整備を進めている。</li> <li>・令和3年度までに計画していたトイレ改修、空調機整備及び施設の老朽化対策等の工事は概ね計画通りに完了した。</li> <li>・令和4年度においても、引き続きトイレ洋式化整備（二見・太田郷・八代・東陽）、空調整備実施設計(麦島)を行っていく。</li> <li>・各施設で経年劣化が進んでいることから、今後も計画的な整備を行っていくとともに、坂本コミュニティセンターの再建については、支所等周辺整備の完了予定である令和7年12月を目標に整備を進めていく。</li> </ul>

■ 第1期基本計画で位置付けられた施策とその成果指標

施策名①		施策名②			
防災基盤・体制の充実		—			
指標名		H30	R1	R2	R3
緊急時における避難体制や風水害などの情報提供が整っていると感じる割合（%）	計画値	45.0	50.0	55.0	60.0
	実績値	41.4	39.9	45.9	43.9
緊急情報配信メールの登録者数（人）	計画値	14,000	16,000	18,000	20,000
	実績値	13,866	14,058	15,917	14,462
自主防災組織結成率（%）	計画値	87.5	90.0	92.5	95.0
	実績値	87.1	88.0	88.0	88.0

第2次八代市総合計画第1期基本計画（平成30年度～令和3年度）

重点戦略に係る取組内容等総括表

重点戦略	4 安全・安心で魅力ある都市を築く
重点戦略	② 市内全域の超高速ブロードバンド化による地域情報格差の解消
重点戦略	市民が情報化社会の恩恵を等しく享受できるよう、市内全域の超高速ブロードバンド化による地域情報格差の解消に努めます。

担当部	重点取組の4年間の総括及び今後の展望
総務企画部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業は、市民が情報化社会の恩恵を等しく享受できるよう、光ブロードバンド未整備地区を解消するため、令和元年度から令和4年度までの4か年事業として実施してきた。</li> <li>・令和2年2月に龍峯地区、令和2年11月末に日奈久・二見・鏡沿岸部、令和3年6月に東陽、泉地区でのサービスを開始しおり、概ね計画どおり進捗している。</li> <li>・事業最終年度となる令和4年度は坂本地区を整備予定であり、整備事業者とより一層連携しながら事業を推進していく。</li> <li>・今後は、整備環境を活かして、誰もがメリットを感じられるデジタル化の推進と、地域課題の解決を図る。</li> </ul>

■ 第1期基本計画で位置付けられた施策とその成果指標

施策名①		施策名②			
超高速通信網などの整備促進		-			
指標名		H30	R1	R2	R3
インターネットがストレスなく利用できる環境にあると感じる割合（％）	計画値	24.0	24.0	36.5	44.0
	実績値	27.3	39.7	44.7	46.0
超高速通信網の整備率（％）	計画値	86.5	86.5	93.8	100.0
	実績値	86.5	88.0	94.7	97.6

第2次八代市総合計画第1期基本計画（平成30年度～令和3年度）

重点戦略に係る取組内容等総括表

重点戦略	4 安全・安心で魅力ある都市を築く
重点戦略	③ 災害対策活動拠点やまちづくりの核となる新庁舎の早期建設
重点戦略	災害対策活動拠点やまちづくりの核となる新庁舎の早期建設に努めます。

担 当 部	重点取組の4年間の総括及び今後の展望
総務企画部	<ul style="list-style-type: none"> <li>建設部と連携し、新庁舎建設の進捗に合わせた各種防災気象関係機器の新設及び移設事業を実施し、滞りなく事業を完了した。また、新庁舎内には災害対策本部事務室等を常設し、旧庁舎ではできなかった、監視・観測機能や被害状況を可視化するシステムを導入したことで、災害時の即応体制を確立した。また、国・県・事業者と有事を想定した実践的な災害対応訓練を実施するなど、災害対策活動拠点としての体制を整備した。</li> <li>引き続き、配備した防災関係機器のメンテナンスや訓練等を行うことで、災害対策活動拠点としての機能維持を図っていく。</li> </ul>
建設部	<ul style="list-style-type: none"> <li>新庁舎建設については、市民の皆様にご不便をおかけしており、一刻も早く新庁舎を建設することが責務であるとの認識を持ち、事業を推進した。</li> <li>厳格な工程管理のもと、当初予定した令和4年2月中旬に開庁した。</li> <li>基本構想の「目指す方向性」7項目を設計に反映し、新庁舎を建設した。 ①市民にやさしい庁舎 ②変化に対応できる庁舎 ③環境にやさしい庁舎 ④安全・安心の拠点となる庁舎 ⑤交流の拠点となる庁舎 ⑥歴史と景観に調和した庁舎 ⑦市民に親しまれる議会庁舎</li> <li>令和4年度に実施する新庁舎外構工事（Ⅱ期）の竣工をもって、新庁舎建設に関する全ての事業が完了する見込みである。</li> <li>基本構想の「目指す方向性」を設計に反映し、予定した令和4年2月中旬に開庁することができた。</li> </ul>

■ 第1期基本計画で位置付けられた施策とその成果指標

施策名①		施策名②			
【第三次八代市行財政改革大綱】 市民サービスの充実		-			
指標名		H30	R1	R2	R3
市が提供するさまざまな市民サービスが整ってきたと感じる割合（％）	計画値	34.0	37.0	40.0	50.0
	実績値	31.5	28.6	24.2	26.3

第2次八代市総合計画第1期基本計画（平成30年度～令和3年度）

重点戦略に係る取組内容等総括表

重点戦略	4 安全・安心で魅力ある都市を築く
重点戦略	④ 路線バス・乗合タクシーの運賃や路線を見直し、より利用しやすい公共交通体系を構築
重点戦略	路線バス・乗合タクシーの運賃や路線を見直し、より利用しやすい公共交通体系を構築します。

担当部	重点取組の4年間の総括及び今後の展望
総務企画部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍に伴い、外出自粛やテレワーク普及等の行動変容により、地域交通を取り巻く環境は劇的に変化し、移動需要の減少が続いている。</li> <li>・そのため、交通弱者への対応や公共交通空白地域の解消に努めるとともに、市民の要望に応えた路線バス・乗合タクシーのダイヤ改正や、6つの路線において運行ルートの見直しを行うなど、公共交通の利用環境の向上に努めた。</li> <li>・また、利用者の下振れが続くタクシーや高速バスの交通事業者に対し、割引チケットの販売等による利用促進策を展開し、移動需要の喚起と利便性の向上を図った。</li> <li>・このような取組の結果、「公共交通機関を利用しやすいと感じる市民の割合」は、コロナ禍においても、計画値に対して8割強の水準を維持することができた。</li> <li>・今後も公共交通の利用促進策を講じていくとともに、地域特性や利用者視点に基づく公共交通サービスの更なる充実に努めていく必要がある。</li> </ul>

■ 第1期基本計画で位置付けられた施策とその成果指標

施策名①		施策名②			
公共交通体系の整備		-			
指標名		H30	R1	R2	R3
路線バスや乗合タクシーなどの公共交通機関を利用しやすいと感じる割合（％）	計画値	25.6	27.1	28.5	30.0
	実績値	28.1	24.0	26.4	25.9
市民一人当たりの公共交通（路線バス・乗合タクシー）の年間利用回数（回/人・年）	計画値	5.0	5.2	5.5	5.7
	実績値	4.5	4.6	4.0	3.7

第2次八代市総合計画第1期基本計画（平成30年度～令和3年度）

重点戦略に係る取組内容等総括表

重点戦略	4 安全・安心で魅力ある都市を築く
重点戦略	⑤ 幹線道路ネットワークの形成に向けた整備促進
重点戦略	県南地域の広域道路ネットワークを構築するため、国道3号や南九州西回り自動車道などの整備を促進します。また、新八代駅へのアクセス向上や交通渋滞解消、日常生活の利便性向上、及びより災害に強い道路交通網を確立するため、都市計画道路などの幹線道路の整備を推進します。

担当部	重点取組の4年間の総括及び今後の展望
建設部	<ul style="list-style-type: none"> <li>西片西宮線の2工区（中間部）は、用地取得を全て完了するとともに、道路工事に着手し、進捗率76.9%となった。3工区（南側終点部）は、関係機関協議を進め、令和4年5月に事業認可を取得した。今後は、令和5年度末の2工区の供用開始と令和10年度末の全線供用開始に向け、整備を進めていく。</li> <li>南部幹線は、県事業により1工区（前川渡河部）の用地取得や道路工事を進め、進捗率34.3%となった。今後は、1工区の事業（橋梁工事等）と併せて、3工区（球磨川渡河部）にも県事業として着手することから、引き続き、県と連携し事業促進を図る。</li> <li>沖新開線は、現在の都市計画決定の課題について、関係機関協議を進めていく。</li> <li>中央線（古閑中地区）は、関係機関協議が終了したことから、事業着手時期について、他路線の整備状況を見ながら検討していく。</li> <li>新牟田西牟田線は、用地取得箇所から、随時、道路工事を進め、進捗率71.8%となった。今後は、八千把川橋梁新設に伴う関係機関協議を実施し、整備を進めていく。</li> <li>竜西東西12号線は、事業説明会を令和元年10月末に開催のうえ、整備区間の西側（新八代停車場線側）から用地取得を進め、進捗率20.7%となった。今後も計画的な整備を進めていく。</li> </ul>

■ 第1期基本計画で位置付けられた施策とその成果指標

施策名①		施策名②			
広域交通網の形成		-			
指標名		H30	R1	R2	R3
自動車などによる市内外の移動がスムーズになったと感じる割合（％）	計画値	45.8	46.0	46.4	46.6
	実績値	48.0	43.0	54.2	51.1
主要幹線道路の整備率（％）	計画値	79.0	79.5	80.0	80.4
	実績値	79.1	79.3	79.6	80.0